

第2次環境基本計画 改訂版 平成25年度指標の実績一覧

I 代表指標の評価一覧

目標及び【代表指標】	評価		数値			目標値 (達成年度)	
	H25	H24	H25	H24	増減率		
限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換 ⇒ 平成2年度（1990年度）比25%削減	※1		(H23実績)	(H22実績)		(H32年度)	
1 市域の年間エネルギー消費量 (PJ)	B	-	20.1	19.8	1.5%	15.9	
市域の家庭部門における年間エネルギー消費量 (市民1人当たり) (GJ)	A	-	14.3	14.7	-2.7%	8.6	
市域の業務部門における年間エネルギー消費量 (従業員1人当たり) (GJ)	A	-	54.4	56.7	-4.1%	30.2	
資源を大切に作る社会システムの形成 ⇒ 平成22年度（2010年度）比17%削減						(H32年度)	
2 市民1人当たりのごみ排出量（1日） (g)	A	A	880	905	-2.8%	786	
リサイクル率 (%)	A	-	17.7	16.4	7.9%	24.2	
3 健康で快適なくらしを支える環境の保全 環境目標値達成率 (%)	二酸化窒素	B	B	50	50	0.0%	100
	一般環境騒音	B	A	84	86	-2.3%	
	河川BOD	A	A	98.0	92.0	6.5%	
みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成	※2、※3						
4 吹田市域の緑被率 (%)	B	-	26.1	26.7	-2.2%	30	
木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合 (%)	-	-	59.5	59.5	※4 0.0%	62	
快適な都市環境の創造	※5						
5 まちなみが美しいと感じる市民の割合 (%)	-	-	57.2	57.2	0.0%	70	

※1 エネルギー消費量の算出は統計データ集約の関係により2年遅れとなる。
 ※2 「26.7%」：平成16年度（2004年度）調査時点の数値
 ※3 「26.1%」：平成25年（2013年）4月時点の衛生画像データから算出
 ※4 「59.5%」：平成22年度（2010年度）調査時点の数値
 ※5 「57.2%」：平成22年度（2010年度）調査時点の数値

●代表指標の評価の内容

- 【A】 このまま推移すると目標に到達する
- 【B】 このままでは目標に到達しないので、取組の強化が必要
- 【C】 基本方針の再検討や新たな取組が必要
- 【-】 評価が困難

●各代表指標の具体的内容

次ページ以降の「(1) 代表指標」の「進捗状況」及び「評価」をご覧ください。

●「指標」の評価

次ページ以降の「(2) 指標」において、過年度との比較により平成25年度実績を
 ○：改善傾向、△：変化なし、×：悪化傾向、-：その他 で評価しています。

●「重点プロジェクト」の評価

「重点プロジェクト実績一覧」において、過年度との比較により平成25年度実績を
 ○：改善傾向、△：変化なし、×：悪化傾向、-：その他 で評価しています。

II 目標ごとの進捗状況と評価

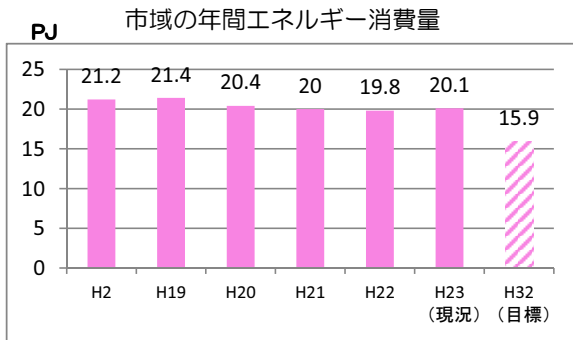
1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換

(1) 代表指標

進捗状況（市域の年間エネルギー消費量：全体、家庭、業務）

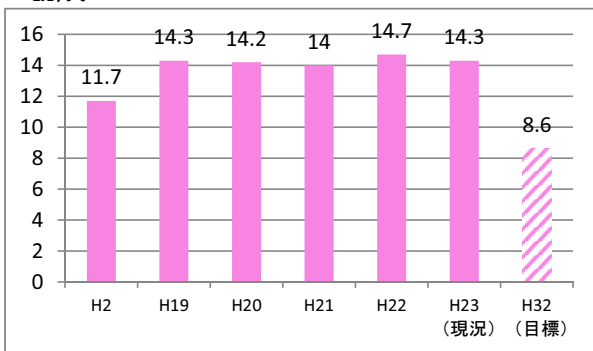
評価

全体 B 家庭 A 業務 A

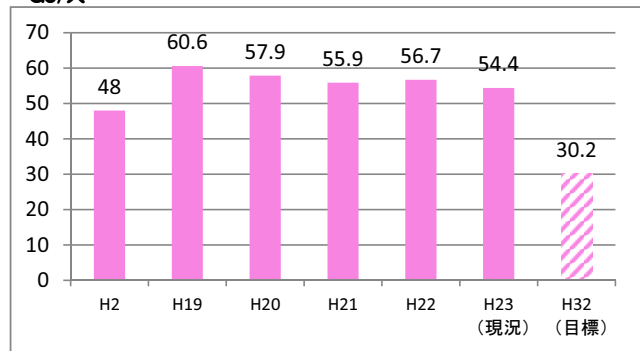


見解
原発事故に伴う電力需給のひっ迫により、家庭部門及び業務部門におけるエネルギー消費量は減少している。製造業における製造品出荷額の増加により、産業部門のエネルギー消費量が大幅に増加したため、全体としては増加している。引き続き、家庭や事業所における節エネルギー等の取組を促す必要がある。

家庭部門の年間エネルギー消費量（市民1人当たり）
GJ/人



業務部門の年間エネルギー消費量（従業員1人当たり）
GJ/人



(2) 指標

進捗状況

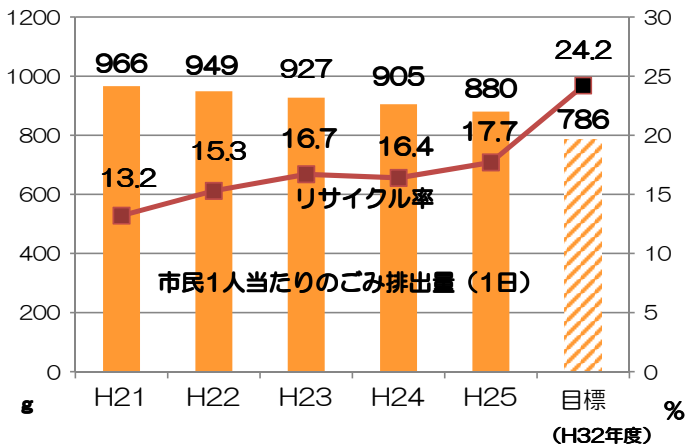
指標	評価	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	見解
市域の年間温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)	×	(H21年度) 1,468	(H22年度) 1,499	(H23年度) 1,796	1,315	家庭及び業務部門のエネルギー消費量は減少しているものの、産業部門におけるエネルギー消費量の増加、電気の排出係数の増加により、排出量が大幅に増加している。
公共施設における再生可能エネルギー導入件数(累計) 上段：件数 下段：施設数	△	47* 26*	52* 30*	59 32	↑	本計画及び吹田市役所エコオフィスプラン等に基づき、公共施設の新築、大規模改修の際には、再生可能エネルギーの導入促進を図るよう働きかけている。今後も引き続き関係部局に強く働きかけ、再生可能エネルギーの導入拡大を進める必要がある。
吹田市役所の事務事業に伴う温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)	○	74	79	75	59	電気、都市ガス等のエネルギー消費量の減少により、排出量が減少している。昨年度に引き続き、夏季・冬季において、重点的に節電に取り組んだ。
市域における太陽光発電システム導入件数累計及び年間受給電力量 (売電機器のみ) 上段：件数 下段：電力量(千kWh)	○	1,098 2,168	1,500 3,383	2,000 6,246	3,000 6,000	固定価格買取制度の開始(平成24年(2012年)7月)により、年々、太陽光発電システムの導入が進んでいる。また、1件あたりの発電量が多い事業用太陽光発電システムの導入が増加しており、件数の増加以上に発電量が増加している。公共施設においても、積極的に導入を進める必要がある。

※ 平成25年度実績の調査では、これまでカウントしてこなかった公園灯等を追加したため、平成24年度以前の数値を変更しています。

2 資源を大切に作る社会システムの形成

(1) 代表指標

進捗状況（市民1人当たりのごみの排出量（1日）、リサイクル率） 評価



A

見解

ごみ減量・再資源化を推進する様々な取組の結果、ごみの年間排出量は、年々減少傾向にある。また、地域レベルでの資源化活動や事業所への指導、啓発が進む中で、リサイクル率が上昇している。

平成24年（2012年）3月に改訂を行った「吹田市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、更なるごみ減量に取り組む必要がある。

(2) 指標

進捗状況

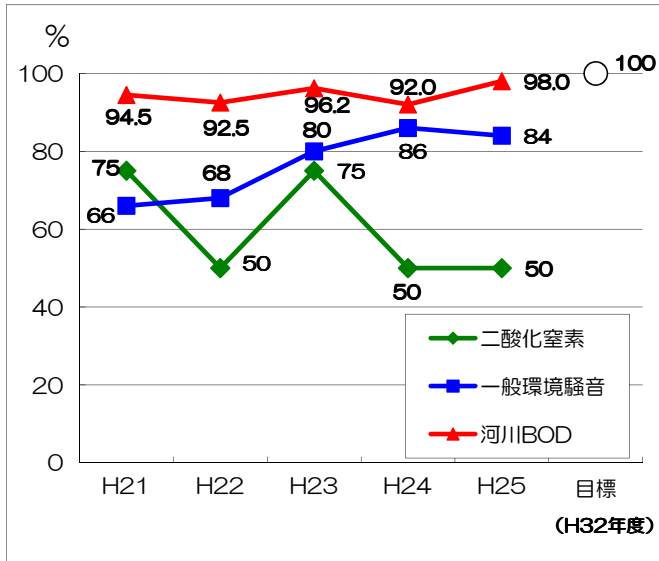
指標	評価	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	見解
ごみの年間焼却処理量 (トン)	○	103,802	101,692	99,963	79,352	家庭や事業所におけるごみ減量の取組が進んでおり、年々減少している。
ごみの年間排出量 (家庭系ごみ) (トン)	○	80,613	80,325	79,389	74,106	ごみ減量・再資源化に係る様々な取組の結果、家庭系ごみ・事業系ごみの年間排出量は、年々減少傾向にある。
ごみの年間排出量 (事業系ごみ) (トン)	○	39,265	37,353	36,137	26,464	
マイバッグ持参率 (%)	○	34.3	33.4	44.1	60	レジ袋の有料化や辞退者への現金値引きなど、取組の推進により、持参率が大幅に向上している。

3 健康で快適なくらしを支える環境の保全

(1) 代表指標

進捗状況（環境目標値達成率）

《環境目標値達成地点数／総地点数》



評価

二酸化窒素 : B
 一般環境騒音 : B
 河川BOD : A

見解

大気中の濃度は減少傾向にある。評価の対象が大気常時監視測定局4局であるため、目標値の達成状況は、75%（3局達成）から50%（2局達成）で推移している。

一般環境騒音の環境目標値達成率は長期的には改善傾向にある。近年では、低公害（低騒音）車の普及が進んでいるが、引き続き道路管理者に低騒音舗装等の要望を行い、環境の保全に努めていく。

河川のBODの目標達成率は、近年90%以上で推移しており、改善傾向にあるが、今後も調査を継続する。

(2) 指標

進捗状況

指標	評価	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	見解
下水道の高度処理普及率 (%)	○	45.7	45.6	60.8	65	平成25年度に、吹田市公共下水道旧正雀処理区を高度処理率100%の安威川流域下水道中央処理区へ編入したために高度処理普及率が急増した。
環境美化推進重点地区	○	3	3	4	15	江坂駅周辺、JR吹田駅周辺及び北千里駅に加え、平成25年（2013年）7月、関大前駅周辺を地区指定した。
熱帯夜日数（5年移動平均値）	×	36	36	38	35	平成20年度（2008年度）比で平成25年度（2013年度）の熱帯夜日数が9日間増加したため、移動平均値が上昇した。当該指標は、ある程度の長期間をもって評価する必要がある。
雨水浸透箇所数累計（箇所）	○	217	233	236	373	浸透箇所は増えているが、今後も取組を進め、増やしていく必要がある。
透水性舗装面積累計（㎡）	○	38,446	47,764	51,909	59,500	歩道等における導入により累計が増加している。今後も引き続き取り組んでいく。

4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成

(1) 代表指標

進捗状況 (吹田市域の緑被率、木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合)

評価

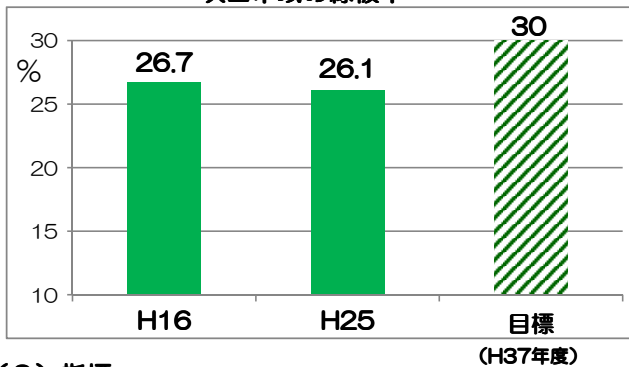
B

見解

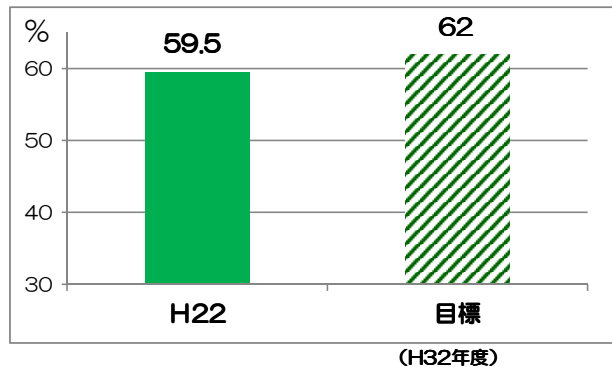
平成25年度(2013年度)に吹田市域の緑被率調査を実施した。前回調査時の平成16年度(2004年度)に比較し微減であった。今後、第2次みどりの基本計画に基づき、質及び量の双方を重視した緑化の推進が求められている。

また、市民意識調査の結果を注視しつつ、それとリンクした施策や取組を進める必要がある。

吹田市域の緑被率



木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合



(2) 指標

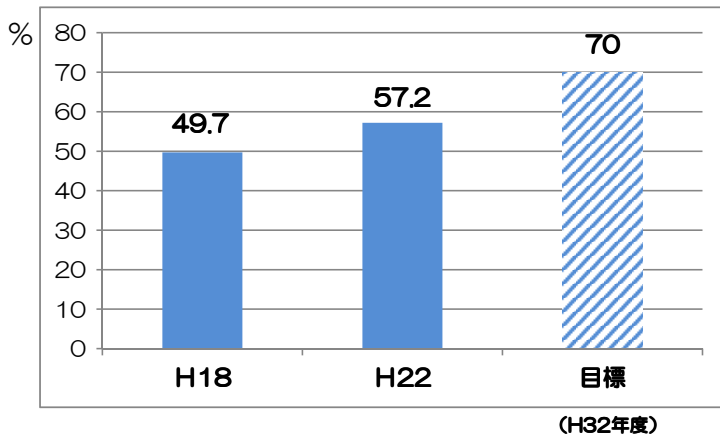
進捗状況

指標	評価	H23年度	H24年度	H25年度	目標値	見解
市域面積に対する緑地面積の割合 (%)	—	15.6 (H21年度)	15.6 (H21年度)	15.6 (H21年度)	20	平成27年度に実施する第2次みどりの基本計画の進行管理により状況を把握予定。
市民1人当たりに対する都市公園面積 (㎡/人)	△	9.0	8.9	8.9	10	都市公園面積は増加したが、人口も増加したため、前年度からの変化が見られなかった。
緑あふれる未来サポーター制度 (公園) の登録団体数	○	60	67	71	75	前年度より4団体増加した。今後も引き続き、取組を進めていく。
公園・緑地の利用しやすさ満足度 (点)	—	60.0 (H22年度)	60.0 (H22年度)	60.0 (H22年度)	↗	平成26年度に実施する市民意識調査により状況を把握予定。
緑化路線延長累計 (m)	○	74,044	75,061	75,316	76,000	毎年、導入を進めており、累計は増加している。今後も引き続き取り組んでいく。

5 快適な都市環境の創造

(1) 代表指標

進捗状況（まちなみが美しいと感じる市民の割合）



評価

A

見解

平成18年度調査では49.7%であったが、平成22年度調査ではその割合が増加している。今後、引き続き、市民・事業者等への啓発や取組の支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取り組んでいく必要がある。

(2) 指標

進捗状況

指標	評価	H23年度	H24年度	H25年度		見解
住み続けたいと思う市民の割合 (%)	○	66.2 (H22年度)	66.2 (H22年度)	66.2 (H22年度)	80	平成18年度調査では64.3%であったが、平成22年度調査ではその割合が増加している。
鉄道・バスなどの公共交通網の利便さ満足度 (点)	—	65.4 (H22年度)	65.4 (H22年度)	65.4 (H22年度)	↗	—
コミュニティバス1便当たりの乗車人数 (人)	○	13.0	14.6	16.7	↗	便あたりの乗車人数が2.1人増加した。
移動経路のバリアフリー化率 (%)	×	34.0	37.1	37.1	100	前年度からの進捗率に変化がなく、取組は実質悪化している。